

みんなが主役 地域で活かす自分力



わたしたちにとって、もっとも身近な地域社会
魅力ある、安心して安全な地域のあり方を考えるとき、
男性だけが話し合って決めるよりも
女性を含めたいろんな人が一緒に考え、一緒に取組むことが
よりよい地域社会を築くことになるのではないのでしょうか
一人ひとりが大切にされ、責任と喜びが分かち合える社会が男女共同参画社会
あなたのもつ「自分力」を地域で活かしてみませんか。

彦根市

(男女共同参画地域づくり・啓発資料)

あなたの地域は元気ですか？

春・秋のお祭りや運動会、公園の清掃や草刈りなど、地域の行事に参加する住民がなかなか集まらない、ということはありませんか？参加者がそれほど集まらなくても毎年変わらず繰り返し、マンネリ化しているという問題はありませんか？

役員や、運営に関る人も同じ人ばかり・・・ということはありませんか？どうすれば活気あふれる地域づくりができるのでしょうか？



ほとんどの地域で子どもの数が減り、共働きの家庭や、一人暮らしの高齢者が増えるなど、地域活動における環境が大きく変わってきています。

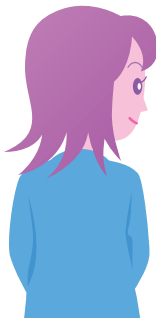
また価値観の違いや多様化などによって、地域行事への関心も薄くなっています。

けれど、火事や地震の防災や、地域の安全を考えると、頼りになるのは地域の力。地域の人々が互いに助け合うことで児童や高齢者の虐待を防ぐこともできます。

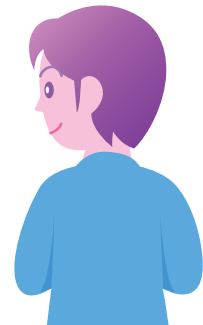
そして、地域には実にさまざまな可能性が秘められています。

環境の変化に応じてさらに発展する地域づくりを、みんなで考えてみませんか。

解決のヒント



気づいていますか？ 地域の課題
眠っていませんか？ 地域の人材
決めていませんか？ 男性だけで



地域づくりのポイント

活動する人を増やす

- ・ 女性が役員に選出されるよう、団体の規約を改正する
例) 世帯1票制から1人1票制に変え、さまざまな人が選ばれるようにする
例) 役員は世帯主に限定せず、実際に活動に参加できる人を登録する
- ・ 活動を担うスタッフを志願制によって一般住民から募る

行事への参加者を増やす

- ・ 性別や年齢を問わず、幅広い層が参加しやすい行事を企画する
例) 参加したい内容、参加できる日時など、企画の段階でニーズをつかむ
ハイキング、ウォーキングなど

安心・安全な暮らしをつくる

- ・ **男女双方の視点**に立って、まちの防災マップを作る
- ・ 災害時における男女のニーズの違いを考慮して、防災体制を整える
例) 昼間に被災したら、地域に残るのは高齢者と女性と子どもが圧倒的に多いと考えられます。たとえば、避難場所の周知、高齢者・女性による防災、避難場所で授乳できるかなどを検討していますか



若い世代の子育てを支える

- ・ 地域で子育てを支援する取組みを考える
- ・ 育児の孤立化を防げるのも地域です

男女共同参画の意識を高める

- ・ 男女共同参画をテーマにした懇談会を開く

～滋賀県発行「地域づくり情報誌」から～

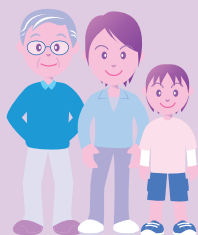
性別役割分業意識について……代表者は男性でないとダメですか？

意見を持っているのは男性だけですか？

女性は人前で話すことに向いていませんか？

女性には大事なことが任せられませんか？

男の方が……？ 女の方が……？



性別で役割を決め付けて制限してしまうと、
楽しさと責任も偏ってしまいます。

また、マンネリ化して斬新なアイデアが
生まれる可能性もなくなるかもしれません。



住みたいまち
安心して
暮らせるまちは
どんなまち？



地域で暮らしている半数は女性です。
また女性の多くは、地域でのネットワークを持ち、地域の情報も豊富です。
地域のことをよく知っているのは女性、といっても過言ではないでしょう。
きっと「こんな問題がある」、「もっとこうしたらいい」、「こんなことがしたい」、
そう感じている女性は多いはず。
そして、「私ならこれができる！」思いついたら即行動する力もあります。
その人材を放っておくのはもったいない！

解決の近道

男女が一緒になって地域の課題解決に**参画**していくと、新しい視点で生活に密着した
取組みが生まれます。

注) 参画とは、計画・企画から一緒に加わること



さまざまな意見を 反映するしくみを作ろう

これまでのしきたりや行事など男女や**いろん
な年齢層**の意見を聞いて見直してみましょう



みんなの意見を聞きだせる、**話し合える雰囲気
づくりが大切**です。

参加しても黙っていても意味がありません。

発言する勇気を持ちましょう。

発言や意見については男女関係なく認め合
いましょう。



地域団体の役員への女性の登用

男女とも関われる組織づくりに取組みましょう。

女性も責任を担い、喜びも分かちあい！

女性の代表者、彦根市はどんな状況でしょうか？

対 象

自治会・町内会（平成20年度）

団体総数 310 （女性代表 8団体） …… 2.5%

まだまだ、
会長は男性が多い

PTA（保護者会）

幼稚園・保育園：団体総数 31 （女性代表 20団体） ……58.1%

小学校：団体総数 17 （女性代表 0団体） …… 0%

中学校：団体総数 7 （女性代表 2団体） ……28.6%

老人会（老人クラブ・敬老会等）

団体総数 140 （女性代表 6団体） …… 4.3%

代表名は男性でも、実際に活動しているのは女性、
ということはないでしょうか？それなら活動する人の
名前で選んでもいいのではないのでしょうか

男 女 共 同 参 画 社 会 と は

「男女共同参画」というと「またか」「どうも苦手」「もう聞きあきた」など男女に関わらず消極的な意見をもつ人がおられます。

「男女共同参画社会」というのは、いったいどのような社会をいうのでしょうか。

わたしたちの周りには、「男だから」「女だから」という理由だけで、自分でも気づかないうちに生き方や行動が制限されていることがあります。それが当たり前と思いつき、自分のしたいことをあきらめて、当然のことのように受け入れたということがあるかもしれません。私たちの最も身近な暮らしの中で、「一人ひとりが大切にされ、ともに支えあって生きる」社会をつくることが大切です。これは、男性、女性に関わらず誰もが願うことです。

さまざまな課題に対し、男性だけが話し合って決めるよりも、女性を含めたいろんな人が一緒に考え、一緒に取り組むことが解決への近道ではないでしょうか？

男女がともに、支えあうまちづくり・・・それが男女共同参画社会です。



男女共同参画を学ぶには

自主的に地域活動に加わって、自分たちの考えや行動が認められたとき、
その活動は楽しいものになります。
女性も男性も平等に自らのまちは自らの手でつくる取組みをみんなで考えてみては！

男女共同参画ミニフォーラム(出前講座)をご利用ください

出前講座をとおして皆さんと一緒に楽しく考えようと思っています！
～ビデオを見たり・体験談を聞いたり・皆で話し合ったり～

- 対 象** 自治会・PTA・老人クラブ・事業所・サークル等
- 期 間** 年間随時(曜日、時間は問いません)
- 講 師** 彦根市男女共同参画地域推進員
- 費 用** 講師謝礼 無料(ただし、会場使用料などは申込者の負担)
講師(彦根市男女共同参画地域推進員)

地域の取組みを、男女共同参画地域推進員がアドバイスいたします！

男女共同参画センター「ウィズ」(平田町：福祉保健センター向い)

「ウィズ」は、市民や団体等が、男女共同参画を推進するための拠点施設です。
年間を通して、男女共同参画に関連する講座を行い、ビデオや図書の貸し出しも行っています。どうぞ気軽にご利用ください。



平成20年12月発行

彦根市市民交流課